

## U19日本代表・武漢日記 (4)



銅メダルを獲得したJM2x 野村選手と瀬戸選手（ともに美方高校）

7月6日

女子シングルスカル決勝

9時10分発艇。昨日のトレーニングで、スタートからの飛び出しができるようにスタート練習を重点的に確認していたこともあり、スタートダッシュに成功しトップに立つ。しかし、100mで中国、イラン、インドネシアにかわされ、4位で500m通過。第2クォーターの中盤まで予選と同様にスピードに乗れなかったが、800m付近からじわじわとリズムが上がって、第3クォーターに入る前に



銀メダルを獲得したJW1xの吉田選手（若狭高校）とプレゼンターの井上先生（前列右）

2位に浮上。本人が得意とする第3クォーターで3位以下との水があきはじめる。1位を独走する中国との差も予選とは違って大きくもなく第4クォーターに入る。しかし、前半から勝負に出たためなのか、思うようにスピードが上がらない。イランが香港から逃げようとして日本に迫ってくる。差が詰まりながら何とか2位をキープしてゴール。

#### 男子ダブルスカル決勝

10時30分発艇。予選の反省を踏まえスタートから積極的に仕掛けるがインドネシア（予選でデットヒートの末、僅差で勝った）も食らいつき、インドネシアと並んで250mを通過。半艇身差でインド（予選A組トップ）、中国が続く。インドネシアとトップ争いをしながら500mを通過したところでインドネシアが仕掛けて半艇身リードされる。その後コンスタントでお互い仕掛けながら差は変わらず1000mを通過した。1300mからインドが猛烈な追い上げを見せて日本をかわしインドネシアに1艇身、インドに半艇身差でラストクォーターに入った。先行するインドネシアに最後の力を振り絞ってアタックするも届かず、インドとほぼ同着でフィニッシュ。インドと0.17秒差で3位であった。勝負に対しての執念や第3クォーターからの艇の動きなどアジアのレベルの高さを痛感したレースであった。



決勝へ向かうJM1x久保選手（保谷高校）

7月7日

#### 男子シングルスカル決勝

スタートから各国トップを取ろうと猛烈なスタートダッシュで飛び出す。久保選手もいい艇速で飛び出したが抜け出すことは出来ず、各艇ほぼ横一線で250mを通過。そこから香港が抜け出し中国、イラン、日本の順で500mを通過した。先行する香港、中国に追いつこうと仕掛けるが差は縮まらず、香港に2艇身、中国に1艇身、イランに半艇身の差で1000mを通過した。イランをかわそうと何度もアタックを仕掛けるがイランも必死にかわし半艇身の差を縮めることができずラスト500mとなる。ラスト300mから必死の追い上げを見せイランに並んだ状態でゴールを切ったが結果は0.3秒差届かず4位となった。イランの選手も表彰台に上がる階段を上ることができないほどの状態でありお互いに全力を出し切ったレースであった。

#### 女子ダブルスカル決勝

9時40分発艇。スタートから中国(予選B組1位)と並んで飛び出す。台北も追う様に半艇身で250m通過。コンスタントになったところでじわじわと中国と差が始める。何とか半艇身くらいで500m通過(0.4秒差)。しかし、差が少しずつあき1000m過ぎたところで1艇身(1.7秒差)。第3クォーターに入り、イーブンペースで行く日本に対し、中国がピッチを上げ離しにかかる。徐々に差があいてしまい、第4クォーターに入るときには、水があいてしまう差になる(3.5秒差)。何とか最後まで勝負しようと上げていくが、差が思うように縮まらない。世界ジュニアに弾みを



つけるためにも、少しでもいい色のメダルを狙っていたが2位でゴール。二人は清々しい表情で表彰台上がり、銀メダルと花を受け取った。

4日間のアジアジュニアも終了し、フェアウエルパーティーを昼食兼ねて各国が集まり食事をする。Tシャツやバッチを交換したり、写真を撮ったりしているときに、団長の井上先生と八木先生はシングルスカルを漕ぎたいとのこと。コースには誰もいない中、2艇浮かべてスタートまで行く。スタートから並べてレースのように戻ってくる。井上先生が余裕をもって上がってくるのに対し、八木先生は上がってきた後は座ってえらくきつそうな表情であった。

ここ数年では、世界ジュニア選手権があつてアジアジュニア選手権がある流れであつたが、今年は逆転した日程であつた。JOCがあり、各プロツク選手権がありの忙しい時期ではあるが、世界ジュニア選手権に向けての目標や課題、メンバーについて考えることのできるいい機会となつた。いつもであれば、オールだけは日本から持っていくところをすべてレンタル。まずオールのピッチの調整が必要で、グリップも大きい。艇はエンパツハがある一方で、どのメーカーなのかわからない古い艇もある中、艇をくじ引きで決める。男女ダブルスカルはエンパツハになつたものの、男子のシングルは16kg以上のもの、女子シングルスカルは90kg設定のものとなつた。ちょうど、スイフトのガルスさんいたこともあり、14.5kgの60kg前後設定の新艇を借り



銀メダルを獲得したJW2x 高野選手（日田三隈高校）、横田選手（唐津東高校）

ることができた。レンタル艇は汚れていたために、日本から持ってきていた歯磨き粉を利用し艇を磨くなどをしてレースに臨んだ。

例年と比べて参加国が少なかったが、中国、韓国、イラン、インドなどとレースすることができることで、今年の世界代表のレベルがどうなのかもわかったように思える。これから8日夕方に日本に戻ってそのまま合宿入りする。アジアジュニアの経験をした選手が戻り、他の選手とのフルー編成を経て世界ジュニア選手権で、メダルを取ってほしいことを期待したい。



武漢製ローイングタンクでしょうか??